事例２

英語でセリフを考えてみよう

１　活動の設定理由

生徒にとって漫画は身近なものである。そこで、教科書の内容を８コマの漫画で表し、吹き出しに入る登場人物のセリフを英語で推測し、漫画を完成させる活動を行うことにした。活動を通して、教科書の内容理解を深めさせたい。

２　指導目標

英語で漫画を完成させることで、教科書の内容を適切な英語でリプロダクションできるようにする。

３　授業での位置付け

探偵の物語を扱う単元のまとめの活動として、教科書の内容を定着させるために実施する。

４　指導手順

①本文の内容を再確認し、活動の内容を説明する。
②三～四人のグループを作る。
③吹き出しの中に、登場人物のセリフを考えて入れさせる。
④自分たちが考えたセリフを練習し、発表させる。

５　指導上の留意点

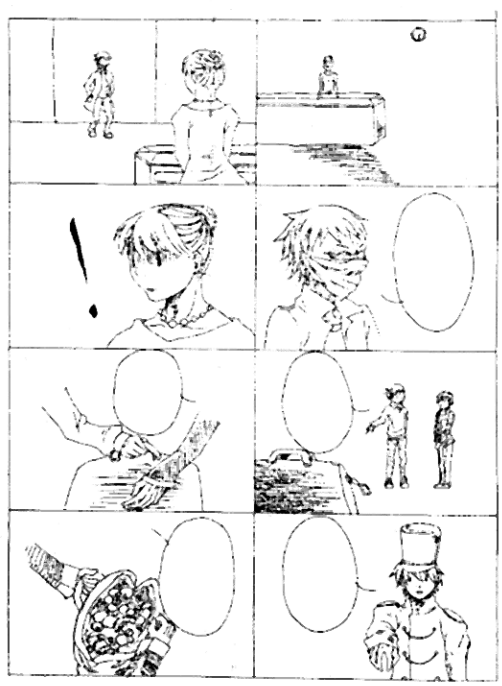
①ワークシートは事前に配布し、生徒に考えさせておく。
②発表の際は、ただ原稿を読むのではなく、分かりやすく発表するように、事前にグループで練習させる。声の大きさや、間の取り方、リズム、イントネーションなどに注意させる。発表の方法は各グループごとに工夫させる。

６　教材例

数研出版　*Big Dipper English Course I*
Lesson 7 "The Case of the Wrong Bag" Part 1
（p 78）

７　資料

資料①　使用したワークシート（右図）
資料②　生徒が作成したワークシート



資料②　生徒が作成したワークシート　1

生徒が作成したワークシート　2

8　考察

この活動では、次の四つの技能が、順に必要となる。

①「読む」（物語を読んで、情報や考えを正確に把握し、概要を捉える。）

②「書く」（自分が得た情報を、セリフ形式を用いて英語で分かりやすく表現する。）

③「話す」（作成した漫画の内容を、聞き手が理解しやすいように、英語の音声的な特徴に留意して発表する。）

④「聞く」（クラスメイトの英語での発表を正確に聞き取り、様々な表現方法を理解する。）

生徒は、特に「書く」段階と「話す」段階で難しさを感じていたが、意見を出し合い、協力し合って、課題を解決していた。また、資料②の「生徒が作成したワークシート２」のように独自のセリフを追加したり、一コマずつ劇仕立てで発表したりと、活動を通して様々な工夫も見られた。このような自主的な取組は、生徒の学習活動への意欲の表れであり、生徒が英語の有用性や必要性を認識できているということである。教科書の内容を理解して終わりではなく、効果的なコミュニケーション活動を通して、理解したことを表現することで、自発的な「学び」が成立する。

9　応用例

紙芝居や事例４で扱うストーリーボードなどにまとめることも可能である。